



< 11月号 >

朝三中だより

<目指す学校像> 一人一人が輝き 感動と笑顔あふれる学校

朝霞市立朝霞第三中学校
令和5年10月20日発行

〒351-0023
朝霞市溝沼1043-1
TEL 048-464-7575
FAX 048-467-4742

校長 嶋 徹

朝晩の冷え込みが日に日に強まっていると感じます。生徒は今月末の合唱コンクールに向けて放課後の練習にも力が入ってきており、本番の出来栄えがとても楽しみです。保護者の皆様には会場(ゆめばれす)の関係で、本番当日はご覧いただくことはできませんが、ご理解をお願いいたします。24日の学年リハーサル(本校体育館)を公開いたしますので、是非ご参観ください。

前人未到の全八冠独占 藤井聡太棋士から学ぶ

羽生善治九段の七冠達成以降の将棋界は、世間で注目されることは多くなかったように思います。藤井聡太棋士が将棋界での最年少記録を樹立したり、タイトル戦で勝利を重ねたりするたびに大きな話題となり、日本では野球の大谷翔平選手と肩を並べる著名人となりました。八冠独占を達成して、たくさんの祝福メッセージがあった中で、師匠の杉本昌隆八段と日本将棋連盟会長でもある羽生善治九段のコメントは、終盤に強い藤井八冠を端的に表現しています。

杉本八段は藤井八冠を小学生の時から指導をしていて、人間性や将棋の戦法などを熟知しています。杉本氏は、「**どんなに険しい道でも臆せず挑戦し、考え抜いた末に最後は必ず正解にたどり着く。それは、私たちが持っている『人間力』を大事にして、その能力を十全に発揮したからでしょう。全冠制覇も藤井八冠にとってはゴールではありません。これからも自分の信じる道を突き進んでください。**」とコメントをしています。これまでの棋士は、人と対戦をして戦い方を研究して能力を高めてきましたが、藤井八冠は人との対戦に加えて、瞬時に何手も先まで判断するコンピューター(AI)を相手に能力を高めてきました。時代の産物を上手に活用して成功した事例の1つです。また、どんなに難しい局面に立っても決して屈せず、長時間に及ぶ対局でも集中力を持続できることは、藤井八冠の強みです。今回の対局も終盤での大逆転と言われています。そして対局を終えた後のインタビューでは、勝っても負けてもその対局を振り返って細かく分析し、さらに強くなるための方策を常に考えています。強くなるための方策をとことん追求し続ける藤井八冠のゴールは、本人のみが知ることなのかもしれません。

羽生九段は、「**継続した努力、卓越したセンス、モチベーション、体力、時の運、すべてが合致した前人未到の金字塔だと思います。今後も将棋の更なる高みを目指して前進を続けられる事を期待します。**」とコメントをしました。継続した努力とモチベーションによってセンスがさらに磨かれ、時の運をも引き寄せる、これこそが「真の実力」です。平凡な努力やモチベーションでは、決して実現することはできません。そして、体力。将棋とは無縁だと考えがちですが、対局が2日間に及ぶこともあることからすれば、体力は不可欠な能力と言えます。まさに羽生九段のコメントは、将棋界だけでなく「未来を託された若者」や「一流を目指す人」に求められる資質と合致すると感じました。

そして八冠を達成した藤井棋士は、「**この経験を糧にして、もっと実力をつけていかないといけない。見合った実力があるかと言われればまだまだなので、引き続き実力をつけていくことが必要かなと思いました。**」と話しました。将棋の強さに加えて、決しておこらず、いつでも謙虚で、冷静に対応できる人間性もファンを惹き付ける藤井八冠の魅力なのでしょう。

